



西幼だより

令和7年 11月27日
新潟市立西幼稚園

【教育目標】
しなやかに
たくましく

ブログも見てね！



(西幼稚園 HP)

自分も大切 友達も大切

園長 渡邊 舞

ある日、少々硬いジャンパーのファスナーに苦戦していた年少さんが「ちょっと手伝ってくれる？」と年中さんに声を掛け、「うん、いいよ」と言って、年中さんが一生懸命に手伝っている場面がありました。以前であれば、近くにいる先生に手伝ってほしいことをお話することが多かったのですが、最近では、まず友達に自分から声をかける姿へと変わってきました。また、「手伝って」と言われなくても友達の困っている様子に気付き、さりげなく手伝ってあげるお友達の姿もたくさん見られるようになりました。そして、友達への「ありがとう」の言葉がたくさん増えています。私たち教職員はすぐに声を掛けたり手伝ったりせずに、こうした子どもたち同士のやりとりをそっと見守りながら、子どもたちが“育ち合っている”ことを実感し、うれしく思っています。



友達に安心して自分の気持ちを伝えたり、友達の様子に気付き、自分でできることを行動にうつしたりするこうした姿は、今日、形式的なことを伝えて明日、身に付くものではありません。ありのままの自分をしっかりと受け止めてもらい、大切にしてもらっているという毎日の積み重ねの中で、安心感が生まれ、自分が中心だった姿から他者を意識し、関心をもち、友達への思い、優しい気持ちがふくらんでいっていると考えます。先生たちからかけてもらってうれしかった言葉、してもらった優しさが根底にあるのです。そこに形だけではない、友達を手伝ってあげようという心からの優しさやありがとうの気持ちがうまれるのです。給食で苦手だったものが食べられるようになった、これまでできなかったことなどができるようになったなどの友達に対し、子どもたち自身で「がんばったね」「すごいじゃん」など祝福したり肯定的な声を掛けたりする瞬間がたくさんあります。みんなに褒めてもらった子はそれはもう、うれしそうな表情をしています。家族のような、兄弟のような関係性の中で、お互いを大切な存在と感じながら認め合って育ち合っている証だと思えます。一人一人が大切な存在。まずは自分が自分を大切に感じているという自己肯定感があってこそ、友達を認める言葉がうまれていると感じています。



季節は冬へ。寒くなってきましたが、西幼稚園の子どもたちと一緒にいると、心が温かくなります。『自分も大切、友達も大切』そう一人一人が感じながら育ち合っている子どもたちを、私たちは大きな温かさで包み込み、ますます、子どもたちの温かく、豊かな心が育っていくようお願いながら、穏やかな時間を共に過ごしていきたいと思えます。